

講義名	スポーツ科学演習 A (卓球・フットサル)			授業形態	
担当教員	中尾 泰史	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

卓球およびフットサルの身体活動を通じ、自身の体力、体調を把握する能力を養う。また心身の健全な発育、発達に対する気づきを高め、生涯における運動実践の重要性を知る。さらにチーム、グループ単位の活動を体験しながらコミュニケーション能力、協調性など、他者とのつながりを築く社会的教養も学ぶ。

到達目標

1. 「健康」獲得の方法を修得できるようになる。
 2. 歴史やルール、応用技術・基本技術を理解し、説明できるようになる。
 3. 応用技術・基本技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。
- *オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。
ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学修などによって対応する。

提出課題

課題の提出方法等については講義中に指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

実践種目の専門技術習得については、プレー中に自身の体力、運動能力にあわせ、無理なく指導、アドバイスする。

評価の基準

授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。
授業中の評価：授業態度・実技点など・・・・・・・・・80%
期末時の評価：レポート課題・・・・・・・・・20%
新型コロナウイルス感染症予防対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、その時に詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

授業中、スポーツを実践していなければ、欠席とみなされる場合がある。
必ず運動用の服装（ジャージ、Tシャツ、短パン等）と室内・屋外用のシューズ（ひも付）を着用すること。
授業中、アゴや首り帯（ピアス、ネックレス、指輪）は外すこと。
病気や体調不良によってやむを得ず見学しなければならぬ時、および持病やけがのある場合、事前に申し出ること。
受講生の技術習熟度によって授業計画を変更する場合がある。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業用資料は必要に応じて配布する。

授業計画

- 1回： ガイダンス
- 2回： 卓球の基礎練習（サーブ）
- 3回： 卓球の基礎練習（レシーブ、ノック）
- 4回： 卓球の基礎練習（バックハンド、スマッシュ）
- 5回： 卓球の実践（シングル）
- 6回： 卓球の実践（シングル）
- 7回： 卓球の実践（シングル、ダブルス）
- 8回： スポーツ・健康に関連した講義
- 9回： フットサルの基礎練習（インサイドキック、パス）
- 10回： フットサルの基礎練習（ドリブル、シュート）
- 11回： フットサルの実践（3対3）
- 12回： フットサルの実践（4対4）
- 13回： フットサルの実践（ゲーム）
- 14回： フットサルの実践（ゲーム）
- 15回： まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○ カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

簡単な競技技術はインターネットやYouTubeの映像を見てイメージしておくこと（2時間程度）。また授業前後に学生同士でフォームチェックやルールの確認をしておくこと（2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、集団行動を伴うものであり、他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めると同時に、自らの役割を果たす必要がある。また、家庭学習へ取り組みにあたり、自ら目標を設定し、達成できるようにできるようにする。そのためには、様々な情報を収集したり、周囲と協力をしたりすることなどが求められる。そして、生じた課題に対して、その原因を分析し、どのような手段を用いれば解決できるのかを考え、それに向けて行動できるようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業が実施される場合は、オンデマンド授業を採用予定だが、その場合は改めて連絡する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり、体力測定の実施によって自己体力を把握する。

備考